

【果樹】の【少雨・干ばつ】対策について

<9月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【露地果樹全般】

(1) 予想される被害状況

土壤水分低下による追肥の肥効低下に伴う生育不良。
果実肥大の低下。
ハダニの増加。

(2) 事前対策

- ① 事前にかん水用の井戸や畑かん施設などを点検し、いつでもかん水できるようにしておく。
- ② 土壤表面の乾燥防止のため、草刈り、敷き草を行い、土壤水分の蒸発を抑える。
- ③ ハダニ類の発生動向に注意し、早めの防除を実施する。

(3) 事後対策

- ① かん水を実施する。
- ② 施肥を行った園ではその上からかん水を行うが、極端な乾燥下では、土壤表面へのかん水は根域に到達しない場合があるため、動力噴霧器でのかん水を行う場合は、土中にかん水ノズルを差し込んで直接根域にかん水する。
※温州みかんでは成熟期が近づいてくるため、かん水による急激な土壤水分の変化は、裂果を引き起こすことがあるので、少量ずつのかん水を数回に分けて実施する。
- ③ 発芽期から緑化期にかけて葉面散布を実施し、枝、葉の充実を図る。

【極早生温州みかん】

(1) 予想される被害状況

収穫後のかん水による秋枝の発生。

(2) 事後対策

- ① 収穫が終わった園地でのかん水は、極端に樹勢の弱った樹のみとし、発芽の見られなくなる10月10日以降に施肥と同時にかん水を行い、樹勢の回復を図る。
- ② 樹勢の低下が見られる場合は、10月10日以降にN分を多く含む葉面散布を数回実施する。